

2008 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 62 巻第 2 号～第 6 号および第 63 巻第 1 号を編集し、発刊した。報文 12、ノート 2、総合論文 1、Short Paper 2、総説 6、解説 8、資料 10 の計 41 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 351 頁であった。なお、第 62 巻第 2 号から第 63 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「海水資源」（若手会の企画編集）、「水・塩の安全性」、「植物の塩ストレス」、「膜による海水利用技術と膜汚染防止策」（西日本支部の企画編集）、「海のエネルギーの有効利用」、「海水資源の有効利用を考える」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

平成 20 年 6 月 5 日(木)～6 日(金)の会期で、ウェルシティ長崎（長崎厚生年金会館）において第 59 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 30 件、ポスター発表 27 件であった。ポスター発表のうち 24 件が口頭発表との重複発表であり、20 件が 35 歳以下の発表者であった。学術賞受賞講演 1 件があり、127 名が参加した。また、学術賞 1 件、技術賞 1 件、奨励賞 1 件および功労賞 2 件の表彰を行った他、名誉会員 1 名を推挙した。

3. 西日本支部の活動

1) 研究技術発表会の開催

平成 20 年 6 月 5 日(木)～6 日(金)の会期で、ウェルシティ長崎西海ホールにおいて第 59 年会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 30 件、ポスター発表 27 件であった。ポスター発表のうち 24 件が口頭発表との重複発表であり、20 件が 35 歳以下の発表者であった。初日は、総会の後、学術賞受賞講演を兼ねた特別講演（山根教授）1 件があり、2 日目は、「膜による海水利用技術と膜汚染防止策」に関するシンポジウムが開催され、活発な質疑討論が行われた。最終的な会期中の参加者は、127 名（懇親会参加者 80 名）に達した。

2) 西日本支部の活動

①平成 20 年度幹事会

平成 20 年 6 月 4 日、第 59 年会開催準備の最終確認のため西日本支部幹事会を開催した。出席者は 10 名。

②シンポジウム「膜による海水利用技術と膜汚染防止策」の開催

平成 20 年 6 月 6 日、第 59 年会会期中に、シンポジウムを開催した。参加者は 124 名、特別講演 1 件、依頼講演 3 件であった。

③会誌特集号の企画、編集

第 62 巻 5 号（西日本支部特集号）を、「膜による海水利用技術と膜防止策」の特集号として、企画、編集した。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

①荷電膜コロキウムの開催

第 38 回（平成 20 年 7 月 25 日、東工大国際交流会館、講演 2 件、参加者 17 名）を実施した。

- ②新荷電膜事業の実施
シンポジウム「環境の未来を拓く膜とイオン — 海水、排水、超純水」の開催（平成20年11月14日（金）、東工大百年記念館、講演6件、参加者：31名）
- 2) 海水環境構造物腐食防食研究会
研究会例会の開催
第48回（平成20年10月29日、（財）塩事業センター、講演3件、参加者：18名）を実施した。
- 3) 環境・生態系・生物資源研究会
 - ①シンポジウムの開催
「日本海水学会 環境・生態系・生物資源研究会 2008年度シンポジウム in 島根」（平成21年3月14日、松江テレサ、講演6件）を実施した。
 - ②会誌特集号の企画
海水誌63巻3号に上記シンポジウムの内容を主とした海洋環境・生物資源関連で特集を企画した。
- 4) 塩と食の研究会
 - ①情報誌第6号の発行
 - ②講演会・見学会の開催
「食品加工会社の見学と講演会」（平成21年3月19日、海水総合研究所、鈴廣かまぼこ、講演3件、見学2か所、参加者36名）を実施した。
- 5) 分析科学研究会
 - ①ニュースレターの配布
第6号、7号を発刊した。
 - ②ミニシンポジウムの開催
「海水、塩、食品などの分析に関する最近の進歩と話題」（平成20年3月3日、オルガノ株、講演3件、参加者13名）を実施した。
 - ③セミナーの開催
「塩の品質・分析及び包装表示に関するセミナー」（平成20年6月13日、沖縄県工業技術センター、講演5件、参加者35名）を実施した。
 - ④見学会の開催
東京都環境科学研究所（平成21年3月3日、参加者：8名）の見学会を実施した。
- 6) 海水資源・環境研究会
 - ①シンポジウムの開催
「海水資源の有効利用を考える」（2008年8月4日、東京農工大学小金井キャンパス、講演7件、参加者69名）を実施した。
 - ②セミナーの開催
「海水資源・環境研究会セミナー2009—リチウム資源の動向および回収技術—」（平成21年2月6日、（財）塩事業センター海水総合研究所、参加者31名）を実施した。
 - ③データベース作成
海水誌26巻（1972年）から62巻（2008年）掲載の報文をPDF化し、検索可能なデータベースを作成した。
 - ④研究シーズの探索および研究テーマの策定
海水資源利用技術に関する可能性を探索するための分科会（以下、可能性探索分科会）を研究会内に設置した。また、海水溶存資源由来化合物の高付加価値化技術調査、および海水溶存資源採取における経済性の再評価について検討した。

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年3回の編集委員会を開催した。第62巻第2号～第6号および第63巻第1号を企画・編集・発刊した。また、投稿規定を現在の原稿作成状況に合わせて改定し、投稿票には投稿原稿の著作権が海水学会に帰属する等、記載事項を変更した。

また、編集委員への若手登用、論文審査の分野別担当化や迅速化、報文掲載時期の調整手順等について検討し、各案件を了承した。なお、(従来の別刷りに加えて) PDF ファイルの販売、論文の転載や公的機関による公開等については引き続きの検討課題とした。今後は、他学会の状況把握に努めるとともに、その功罪を明確化し、社会潮流に迅速に対応できる体制づくりに努めることを確認した。

2) 研究委員会

研究会役員名簿を整備し、また、各研究会の活動状況や資金状況を明らかにし、相互チェックできる体制を整えた。学会からの交付金の予算計上についても、研究委員会で調整した。新たに設立を要望した海水資源・環境研究会について、活動範囲などに関する助言を行った。研究会の活動を海水学会員に如何にして伝えるか、また、研究会活動を会員増につなげる方策などについても意見交換した。

6. 若手会の活動

平成20年度活動報告

1) 学会誌特集号(第62巻第2号)の発行

平成19年度実施のシンポジウム講演内容を中心として、「海水資源」をテーマとした特集号を発行した。

資料「我が国における海水資源利用の現状と将来」	長谷川正巳(塩事業センター)
資料「福岡の海水淡水化技術について」	濱野利夫(福岡地区水道企業団)
資料「製塩技術開発の現状と将来」	吉川直人、他(塩事業センター)
資料「海水希少資源の回収 -現状と課題-	大井健太(産業総合研究所)
資料「深海に潜む有用微生物」	秦田勇二(海洋研究開発機構)
資料「海洋深層水の利用の現状と問題点-特に水産分野の立場から-	藤田大介(東京海洋大学)
報文「イオン交換膜法かん水の濃縮特性に関するシミュレーションの検討」	正岡功士、他(塩事業センター)
総合論文「振動U字管を用いたハイドレートスラリーの密度測定と資源開発への応用」	辻 智也、他(日本大学)

2) 「第8回若手の集い」の開催

以下の通り開催した。

日時：平成20年6月7日(土) 9:00～15:00

場所：ハウステンボス(長崎県佐世保市ハウステンボス町1-1)

内容：「海水淡水化技術の現状と将来」と題した、講演会、見学会を開催した。

講演会(共催：ソルト・サイエンス研究財団)

「長崎県の水環境について」 長崎県水環境対策課 浅田要一郎氏

「ハウステンボス海水淡水化設備とその後の技術の進歩」

三菱重工 松井克則氏

「中空糸型逆浸透膜と最近の進歩」

東洋紡 熊野淳夫氏

「ハウステンボスの水と環境」

ハウステンボス 林田幸則 氏

見学会

淡水化施設を中心に、ハウステンボス内のゴミのリサイクル施設、コジェネレーションシステムなども見学した。

3) 第2回幹事会の開催

日付 平成20年6月6日(金)

時間 17:00~18:00

場所 ウェルシティ長崎

以下の内容について議論した。

- ①「第8回若手の集い」について
- ②平成19年度の決算・活動報告について
- ③平成20年度の活動計画について
- ④第9回若手の集い」について
- ⑤その他

4) 他団体との連携

- ①西日本支部主催シンポジウム「膜による海水利用技術と膜汚染防止策」に協賛。
- ②資源・環境研究会主催「海水資源・環境シンポジウム2008—海水資源の有効利用を考える—」を共催。
- ③塩と食の研究会主催「食品加工会社の見学と講演会 ~鈴鹿かまぼこ(株)恵水工場・かまぼこ博物館、財団法人塩事業センター 海水総合研究所~」に協賛。

5) 「第9回若手の集い」の企画

専門分野にとらわれず研究者・技術者間の親睦を深めていただくことを目的とした懇親会を以下の通り企画した。

日付 平成21年6月3日(水)

時間 18時~20時

会場 東京大学山上会館地下1階(東京都文京区本郷7-3-1)

6) 第60年会ポスターセッションにおける「技術交流セッション」の企画

ポスターセッションを一層活発なものとするために、従来の学術研究に関するポスター発表に加えて、参加者の交流を目的とするセッションを設け、「技術交流セッション」として、下記の通り企画した。

主催: 第60年会実行委員会、若手会

日時: 平成21年6月4日(木) 15:00~16:45

場所: 東京大学

7) 若手会規約案および若手会規則案の作成

学会会則に若手会規約を定めることを目的として、若手会規約案を作成し、理事会に提出した。また、本会運営の規則を定めることを目的として、若手会規則案を作成した。

8) 会員数(平成20年度末現在)

33名

7. 事務改善

ホームページ・学会誌を通じて、日本海水学会の企画行事、投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに、事務局における事務処理の簡素化、マニュアル化を前年度に引続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会 11 名、退会 19 名、年度末現在 374 名

維持会員：入会 1 社 2 口、退会 4 社 7 口、年度末現在 48 社 434 口